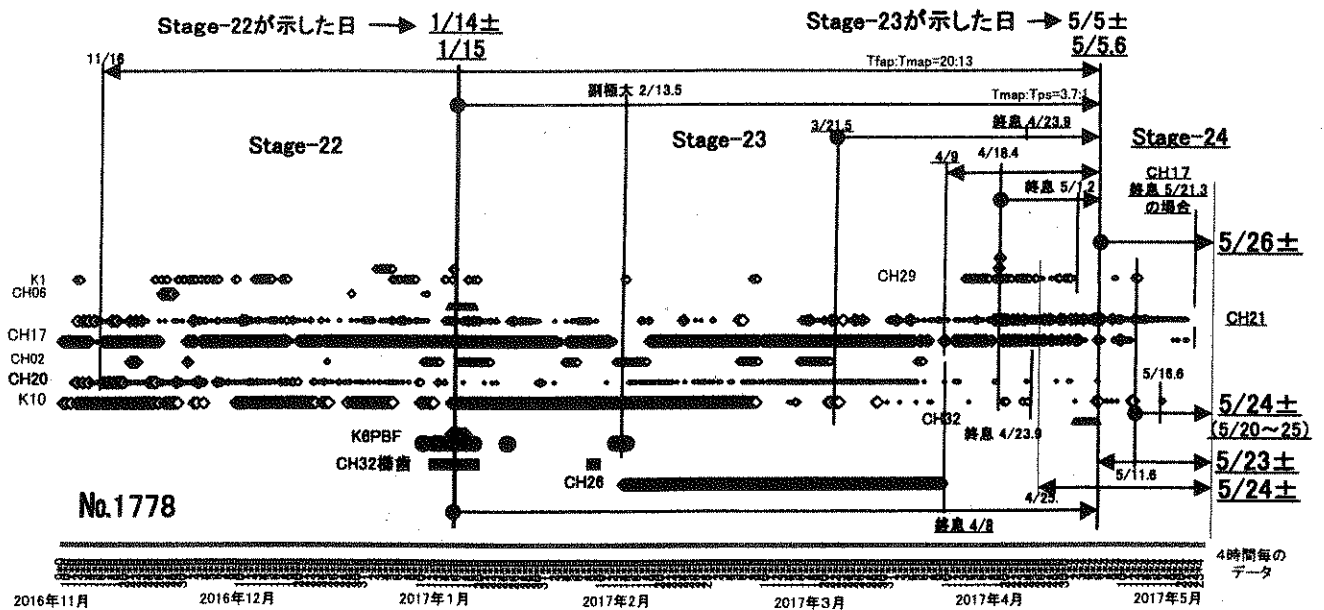
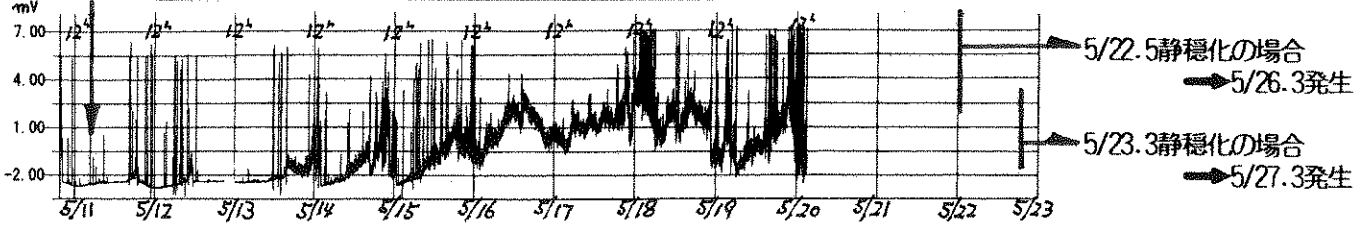


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続前兆現況報告 5/25以前発生の可能性は否定  
5/22~23 CH21終息が観測されれば → 5/26or27 対応地震発生の可能性有

極大5/11.6 唯一の残存前兆CH21 (本日5/20 15h迄の基線)



前続報で、最終極大認識=5/11.6 に対し、最後に残った残存前兆CH21の特異状態前兆が終息すれば、8年10ヶ月継続した観測歴上最長継続地震前兆の対応地震発生時期が計算できることを報告致しました。他の前兆動向から5/23±(5/23~25)を示す可能性が示唆されたため、CH21の前兆終息時期が近い可能性を報告致しました。CH21基線変化は冒頭の実際基線波形を参照。  
本日5/20の午前にCH21基線は正常基線に復帰致しませんでしたため、 $T_{map}:T_{app}=3.9:1$  経験則より、5/23以前に対応地震が発生する可能性は完全否定できません。また、本日、短時間ですがCH17に糸状特異が断続的に観測されました。CH17は5/5.6極大では糸状特異顕著ですが、5/11.6では糸状特異が終息しています。このため、CH17特異の微弱再出現は、5/5.6極大に対する前兆期間 $T_{aa}$ と認識されます。直前特異の可能性も考慮致しましたが、CH21特異が終息していないため、CH17の再出現を直前特異とするのは調和致しません。5/5.6極大に対する前兆期間中であるとして計算しますと、5/25を含め以前時期の発生の可能性は否定されます。仮に発生が26日の場合は明日5/21午前はCH17特異は出現の可能性有。CH21特異が5/22~23のいずれかに完全終息するか、観測を続け続報で報告予定です。

- ◆推定領域：下図 点線領域=大枠 太線領域内=可能性高い  
※ある程度火山に近い領域の可能性有  
(※影響局誤認の場合は福島付近となるが下図領域が考え易い)
- ◆推定規模：M7.8±0.5 (震源浅い陸域日本列島地殻地震)
- ◆推定時期：実際の前兆終息を観測後計算予定  
可能性：5月22~23日終息の場合=5月26日or27日  
(※5月24日夜段階で前兆継続の場合は再考し修正)
- ◇推定発生時刻：午前9時±1時間 (又は午後6時±3時間)

